



第561号
2019年12月2日

発行:自治労連千葉県本部
千葉市中央区長洲1-10-8 自治体福祉センター内
TEL 043-227-9393 FAX 043-227-6060
mail: union@jichirorenchiba.jp
URL http://www.jichirorenchiba.jp/
責任者・竹内 敏昭 編集長・實川 理

青年部 未来ツアー2020in熱海

日時:2020年

1月25日(土)
~26日(日)

料金:13,000円

(交通費・ツアー費は含まません)
(補助等は単組にご相談ください)

場所:熱海市

内容

【1日目】

講演①「A-biz」 ◆事業者支援

講師:長谷川さん(熱海市役所産業振興室長)

講演②「ADさん、いらっしゃい」 ◆広報戦略

講師:山田さん(熱海市役所支支援担当)

交流 ★県内自治体+静岡の青年とじっくり交流

【2日目】

講演③「リハ-ションまちづくり」 ◆空き店舗活用

講師:市来広一郎さん(株式会社machimori
代表取締役。『熱海の奇跡』著者)

まちづくりフィールドワーク

解散(12:00)

オプションツアー-

Aコース:MOA美術館

Bコース:熱海梅園&来宮神社

Cコース:熱海城&トリアート迷宮館

問い合わせ・申し込み:各単組組合事務所または
自治労連千葉県本部(043-227-9393)まで

収集車にごみを投入する青木さん(写真中央)



鋸南地区環境衛生労働組合

9月9日朝、到着す
るとクリーンセンター
はめちゃくちゃ。搬入
スロープは倒木・落石
で通行できず、車庫の
シャッターは崩壊、壁
は崩れ、可燃ごみを貯
めるごみピットの扉が
停電で開かず、焼却炉
は稼働できない状況で
した。重機とチェンソ
1で2日ばかりで場内
を片付けました。

可燃ごみの収集は、
2日後から再開。焼却
炉はダメでも
すぐに収集再開

はできないため、ピッ
トにごみを投入するた
めのプラットホーム
に、シートを敷いてご
みを積み上げました。
収集量は1日で20トン
程にもなりました。
携帯電話も固定電話
も通じませんでした。
電話で話せないため本
庁から被害状況の確認
には来てくれなかった
が、対応方針はその場
では示されなかった。
もどかしさがありました
た。災害時対応マニユ
アルを改善する必要を
感じました。

当初は水と食料は各
自で確保することさ
れていました。満足に
水分補給もできない上
に猛暑で疲弊する中、
12日にいち早く県本部
がスポーツドリンクを
差し入れてくれ生き返
りました。これを機に
当局も水と食料を調達

水と食料は
各自で確保

LINEで現場確認

停電で固定電話が通
じず防災無線もダメで
した。コピー機が動か
ず現場確認の地図が印
刷できないため、地図
を写真にとって携帯ア

市原市職労現業評議会

自衛隊と連携し倒木を
処理する市原の現業職
員(写真右)

「道路維持25年の
経験が活かした」
野本 研一 議長

道路維持管理にとっ
ては倒木が大問題でし
た。大木が多かったた
め手持ちのチェンソー
では長さが足りず、輪
切りにしても手で運べ
る重さではありません
でした。幸い土木事務
所にはアタッチメント
を付け替えられる小型
のショベルカーが一台
あり、山道での作業に
大活躍しました。

道路維持25年。風に
よる大規模な倒木とい
うのは初めてですが、
何度も災害は経験して
おり市内の状況や復旧
までの流れはわかって
います。迅速で確実な
復旧のために知識と経
験を持った現業職員が
必要だということを訴
えていきたいです。

その後、今回の災害
対応を検証し提言にま
けていきます。

労働組合への
信頼が強まった

今回の災害では、組
合の団結の力を感しま
しました。連日の業務で
こたれそうなときに現
業の仲間が電話をくれ
たりメールで励まして
くれました。12日の県
本部の激励と差し入れ
もあり、職場全体の雰
囲気が「労働組合って
すごいね」と変わった
のを感じています。

横断歩道

昨年、西日本豪雨
の2ヵ月後、被災地
域の方に会った際、
「たいへんでした
ね」と声を掛けたと
ころ、「今もたいへ
んなんですよ」と返
答があり、被災地の
大変さを考えさせら
れた。▼台風15号の
被害にあい2ヵ月半
が過ぎ、関連する報
道は減ってきてい
る。しかし、被災地
はブルーシートのま
まの家が多く、自宅
再建ができなかった
り、農業など再開が
困難になるなど、長
期的な支援が必要に
なっている。自治体
職場ではただでさえ
人員不足の中で災害
対策に忙殺され、毎
日深夜まで、休日も
出勤する日が続き職
員の心と体の健康が
心配だ。▼現地に支
援に入って感じたこ
とは、若い人を含め
ボランティアへ積極
的に参加する方が多
かったこと、国は
被災者や防災対策に
もっとお金を掛ける
べきだということだ
った。地球温暖化の
影響で、今後も超大
型台風が襲ってくる
ことが予想される。
今回の災害の教訓を
共有し、今後の備え
をできるだけ早く作
ることが、国や自治
体、私たちに求めら
れている。(H)